

### 報道写真集

## 2018.9.6 北海道胆振東部地震



最大震度7、それに続く全戸停電。道民が初めて経験した大災害の発生からの一週間を、「北海道新聞」の写真と紙面で紹介する報道写真集。ご希望の方はお気軽に販売所までお電話ください。

緊急出版 報道写真集 発売日2018年10月5日  
2018.9.6 北海道胆振東部地震 定価 1,080円  
北海道新聞社 編 A4判、128頁



多くの皆様のご臨席を賜り、学習発表会を開催できました。この場をお借りして感謝申し上げます。  
さて、学習発表会は、授業で学んだことを生かしながら、貴重な体験をする場です。

子どもたちは、本番という大きなプレッシャーを感じつつ、限られた期間内でやり遂げようとがんばります。  
どの演目も個人作業ではありませんから、途中で「やくめた」というわけにはいきません。子どもたちは、努力することや責任感、協力する大切さや「みんなやればすごいことができる」といったことも学びます。  
自分が何かをしたときには、その陰には必ず誰かの助けがあるものなのです。しかし、それはあまりにさりげなく、当たり前のようになされているため、気付かないことが多いように思います。それどころかアドバイスされたことを叱られているとさえ思ったり、褒めてもらっても皮肉としか受け止められなかったりという人もいます。  
当然、当人同士の人間関係もあるでしょうが、自分だけががんばっている



「いつも、どこかで、誰かが」

新得町立屈足南小学校 校長 高 充慶



という気持ちでいると、自分の周りには誰もいなくなってしまうかもしれない。「熱年離婚」という言葉が流行した時代がありました。理由は様々でしょうが、日頃の感謝もなく、当たり前のようにならなくなったことへの「不満」もひとつの理由と聞いています。  
できて当然、できないければ文句を言われるとなれば、正直やっつけられないと思う気持ちも分かります。  
「賞は厚くし罰は薄くすべし」という言葉は「善行は小さなことでもおおいに褒めたたえ、悪行はできるだけ軽い罰にするのがよい」という意味です。  
しかし、それ以前に善行を善行ととらえられなければ、褒めることもできません。  
ともすると他人の粗探しをしてばかりいる世の中。善行を見つけて感謝の意を積極的に伝えていきたいと思う秋の夜長です。お体ご自愛ください。

# 本

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。  
今読みたい話題作！  
欲しい本をお取り寄せ！

# 無送料

気軽にお問い合わせください。  
通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。  
※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

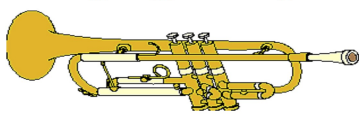
## いちいち屈足駐在所



鈴木進司 巡査部長 No.28

### 「防犯イベントの実施について」

北海道胆振東部地震の影響で中止となった「安心・安全屈足防犯の集い」が11月3日に実施されます。  
○安心・安全 屈足防犯の集い  
道警音楽隊・カラードガード隊が来ます。  
参加無料 大人も子供も楽しめるようになっています。



日時 11月3日(土曜日)  
午後3時50分から午後6時ころまで  
場所 屈足柏町3丁目 屈足総合会館「さわやかホール」  
第1部 腹話術師による防犯教室  
第2部 警察音楽隊による演奏  
その他、交通事故現場写真などのパネル展示 参加者へのおみやぎ無料配布の実施。



道新十月号  
ポケットブック  
の御案内です。



▼ポケットブック10月号  
「優秀な伝統食品『のり』レシピ」  
おにぎり、すしほか、麺料理の薬味など昔から食卓に欠かせない「のり」。「海の野菜」とも呼ばれ、ビタミンやミネラルなどの栄養素が含まれており、口に入れると磯の香りと豊かなうま味をしっかりと感ずることが出来ます。贈ったり、贈られたりする機会も多いのり。おいしく使い切るためにも、のりが活躍する料理を紹介いたします。配布済み。

ポケットブック次号予告  
「レパートリーに加えた鍋レシピ」  
お楽しみに。

連続小説

## 電池のきれた兜虫

赤池 武臣

<最終回>

こんなに生き生きとした武彦の姿をかつて典子は見たことがない。典子は、やはり思いきって東京を捨ててよかったと思った。

これから先の生活設計など何もなかったが、騒音と、カミソリの刃のような街からのがれただけでも幸せだと思った。

「ママ、汽車に乗ってね、どこに行くの」窓から顔を離し、ふりかえって行先を典子に尋ねる武彦の声に、ようやく母親として典子を慕う我が子の温もりが伝わってきた。典子は、思い切り抱きしめたい衝動にかられた。

「そうね。遠い所に行くの。誰も知らない処。そうだ、北海道に行くの。北海道の十勝に行くの。あそこはママのお友達がいってね、そして、兜虫も一杯いるんだってよ」 「そう。そしたらどこかで電池、一杯買つていかなければいけないね。ママ」 「あのね武彦。兜虫は電池で動くのと違うんよ。兜虫はね、武彦やママと同じく、生きてるの。ご飯たべて生きてるの。分かる」

典子の脳裏に、兄においてきぼりをくらしい泣きながら、兜虫を胸に抱いて、後を追った幼い自分の姿がよぎっていった。  
「僕、分かんない。だって、あの兜虫、電池が切れて動かなくなつたんだよ」  
「違うの。あの兜虫はね、餌をやらなかったから、死んでしまったの」

死んでしまったといつても、少し知恵遅れにも思える武彦には、おそらく理解しがたいことだろう。あどけない顔で、必死に理解しようと、いつまでも見上げてくる武彦を、このうえなく可愛いいと、真底、典子は思った。  
そして、今は判らなくとも、素朴な山里に住み、自分の手で一つ一つその謎を解き明かしてやろうと思った。

突然の訪問である。友人も、さぞびつくりするだろう。だが事情を話し、そのうち仕事にありつけば、親子二人、何とか生きてゆけるはずだ。いや、何としても武彦と二人で生きなければならぬ。膝枕で、やすらかな寝息をたてている武彦の体温を、両腿でいづくしみながら、典子はいつまでも、車窓に映る自分の顔を透し、外の暗闇をみつめていた。

完

### ねっとわーく屈足



ねっとわーく屈足電子版  
ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。  
ツイッターも屈足の話一杯毎日更新！

### じじ-akira1942

